

私のカルテ

No 3 5 4

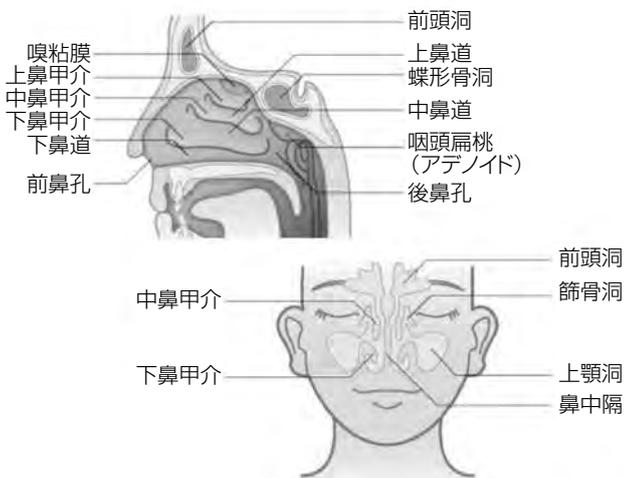
副鼻腔炎



津島市民病院
耳鼻いんこう科
部長
安江 実穂

【副鼻腔とは】

鼻の内部を鼻腔といいます。副鼻腔は鼻腔周囲の顔の骨にある空洞です。いくつもあって鼻腔と交通しています。それぞれ名前がついていて、額の裏側にあるのは前頭洞、両眼の間にあるのは篩骨洞、頬の裏側にあるのは上顎洞、鼻の奥の方にあるのは蝶形骨洞と呼ばれています。副鼻腔がどんな役割をしているのかは、まだよくわかっていません。たとえば衝撃を吸収する働きをしているとか、頭の重さを軽くしているという説、鼻腔と同様に、副鼻腔も吸気の加温・加湿作用や、音声の共鳴作用にかかわっているとの説があります。



【副鼻腔炎の原因】

急性副鼻腔炎の多くは、風邪などで、ウイルスや細菌が鼻腔に感染して炎症を起こし、それが副鼻腔にまで及ぶことなどで起こります。炎症が長引いたり、細菌感染が繰り返されたりすることによって、症状が3カ月以上続くと慢性副鼻腔炎と診断されます。

鼻の炎症だけでなく、真菌(=かび)、虫歯なども副鼻腔炎の原因となることがあります。また、細菌感染のないアレルギー性鼻炎や気管支喘息、アスピリン喘息など、アレルギーによって起こる病気が原因となることもあります。

【副鼻腔炎の症状】

○鼻閉

粘膜が腫れたり、鼻水がたまったりして、鼻づまりが起こります。慢性副鼻腔炎では鼻茸を合併することが多く、これも鼻づまりの原因となります。

○鼻汁

黄色っぽい粘りのある鼻水が出ます。のどの方へ流れる場合を後鼻漏といい、慢性副鼻腔炎でよくみられる症状です。

○頭痛、顔面痛

急性副鼻腔炎では、頭部や顔面に強い痛みが出る場合があります。慢性副鼻腔炎では、強い痛みよりも頭重感や疲労感、集中できないといった症状が現れやすいです。

○嗅覚障害

粘膜の腫れや鼻汁などのために臭いが鼻の上の方にある嗅粘膜にまで届かなくなります。炎症が長引くと嗅粘膜自体に障害が現れます。

【副鼻腔炎の治療】

○薬物療法

症状を抑える薬(消炎酵素薬、解熱鎮痛薬など)とともに、抗菌薬を服用することが一般的です。慢性副鼻腔炎では数カ月間、内服を続けることがあります。

○鼻処置とネブライザー療法

血管収縮薬などを鼻腔に噴霧した後、鼻汁を吸引します。続いて抗菌薬やステロイドを含んだ薬液を霧状にして、鼻などから吸い込み、副鼻腔に送り込むネブライザー療法を行うと効果的です。

○手術療法

薬物療法、処置、ネブライザー療法を行っても副鼻腔炎が治らない場合には、手術を行います。現在は、内視鏡を使った手術(内視鏡下鼻内副鼻腔手術:ESS)が主流となっています。炎症を起こしている粘膜やポリープを切除し、鼻腔と副鼻腔の交通をよくします。内視鏡がなかった時代の手術に比べ、患者さんの体の負担は随分軽くなりました。入院が必要で、退院後の処置通院が大切です。